



練習中に朗報を喜ぶ佐藤部長とナイン

甲子園へ出場きままる

市立柏高等学校

昭和六十三年十一月に行われた第四十一回秋季関東地区高等学校野球大会で、初出場ながら、みごと優勝の栄冠に輝いた、市立柏高等学校（赤池邦生校長・生徒数二六六八）野球部が、今年三月に阪神甲子園球場で熱戦が繰り広げられる「第六十一回選抜高等学校野球大会」への出場が二月一日午後、日本高等学校野球連盟からの電話により、正式に決定しました。このビッグニュースを「広報かしわ速報版」でお知らせいたします。



市役所のロビーで関東大会の優勝を報告する野球部員（昨年11月7日）

秋季関東地区高等学校野球大会で優勝し、春の選抜大会への出場が確実視されていた市立柏高等学校野球部が、二月一日、日本高等学校野球連盟から赤池校長に電話が入り、甲子園の出場が決定しました。グラウンドで練習中の同校野球部ナインは、甲子園出場決定の知らせに、からだ全体で喜びを表していました。

決勝戦の相手は、八千代松陰高校。過去二度決勝に進出した市立柏高等学校は、3対5で惜敗し、悲願の優勝は果たせませんでした。しかし、春の選抜大会出場への重要な大会とな

る関東地区大会への出場権を獲得しました。関東地区大会は、千葉、神奈川など七県の代表十五校が参加して、十一月三日から行われまして、同校野球部は、



鈴木 眞

「ふるさと柏」の意気高らかに市柏の健闘を祈る
柏市長

市立柏高校のセンバツ大会出場決定を三十万市民の皆様と共に喜んでおります。そして、この快挙を成し遂げた選手諸君には心から祝福と激励の言葉を贈りたいと思っております。

市民の子弟の高校として昭和五十三年に開校し、昨年創立十周年を祝ったばかりの本校が、昨年の秋季関東大会に初出場で初優勝を果たし、また、これによってセンバツ出場が実現したことは、まさに快挙と言っほはありませぬ。

指導にあたられた監督さん

折しも、今年市制施行三十五周年を迎え、また、人口三十万人突破が見込まれるなど、本市にとって記念すべき年でもあります。

この記念すべき年に、センバツ大会出場の際に輝いた選手諸君には、「ふるさと柏」の代表として、日頃の練習の成果を存分に発揮され、正々堂々、悔いのない試合を展開していただきたいと念願しております。

選手諸君の健闘を心からお祈りいたしますとともに、市民の皆様が御支援をお願ひ申し上げます。



柏市議会議長
千葉清志

健闘を祈る

市立柏高等学校野球部の皆さん、春のセンバツ甲子園出場おめでとうございます。柏市議会を代表し、心からお喜びを申し上げます。

さて、このたびの壮筆を高く評価するものでありますが、その第一は、本校が「公立普通高校」であるという点であります。広域から生徒を募集できる体育科を持たない本校が、県大会の準優勝を積み重ねたことすら、大きな驚嘆事であり、遂に甲子園への切符を掌中にされたことは、まさに快哉（か

いさい）の雄たけびを禁じ得ません。第二は、本校チームに際立ったスタープレーヤーに恵まれて勝ち上がったきたものではないという点であります。言つなければ全員野球、すなわち一人ひとりが主役であり、一人ひとりが脇役であるところに、偉大な価値を見出すものであります。

第三は、昭和五十三年開校という校歴の点であります。甲子園出場校が、開校何十周年、あるいは出場何回目という中において、本校は全くの新進鋭であり、それは、歴史と伝統と、先輩指導と支援態勢等々、決して恵まれたものとは申されず、それを監督と一体となった和と平常心によって、今日に至ったことは、賞揚し難い価値があると信じます。かつ、いみじくも開校十周年の期、これに優る母校の名誉は他にありませんようか。

選手諸君。ありがとう。選手諸君。どうか平常心で思つて戦つて下さい。祈り健闘



柏商工会議所会頭
寺嶋周三

物心にわたるご協力を

甲子園の野球大会を見るたびに「柏市からも、どこかの高校が出場できればよいが・・・」といつも願つておりました。平成元年のセンバツ大会に市立柏高等学校野球部の出場が決まったことは、全市民の切なる願いをかなえてくれたもので、中村監督はじめ選手や関係者の皆さんに、心からお礼を申し上げます。

甲子園の春と夏の大会は、出場校の街のPRに、大きな役割を果たしております。春のセンバツ大会でも、全国ネットワークを通じて長時間にわたり放送されるため、柏市と市立柏高等学校の名は、多くの人たちの記憶

に残ることでしよう。

センバツ大会へ出場するためには、かなりの費用がかかります。しかも、市立柏高等学校は、夏の甲子園大会へ出場する可能性もおおきいのです。そこで、春の費用と夏の費用の一部も含めた資金調達をする必要があるといえましょう。資金を集める組織として「柏市立柏高等学校野球部を甲子園に送る会」をつくり、ひろく市民の皆さんからご寄付をいただく仕事を始めております。

「甲子園の野球大会派遣には費用がかかりすぎるのではないか」というご批判もお聞きしますが、柏市にとっては初めての全国大会出場であり、選手の方々も、郷土と母校の名誉にかけて、力一杯試合をする気持ちに燃えておりますので、暖かいご協力を切にお願いいたします。また、数多くの市民の皆さんが応援のために甲子園球場へお出かけくだされば幸いです。

平成元年という記念すべき年に出場が決まった市立柏高等学校野球部の皆さん。中村監督を中心に、日ごろ鍛えた実力を十二分に発揮し、勝ち進んでゆくことを、心から期待しております。

市立柏ナイン へ贈る メッセージ



柏市教育長
古谷武雄

いのちの輝きに感動を

昨日、教育の危機的状況を嘆く声が多く寄せられてくる。一方では、額に汗せず口先だけの評論家然とした、しかも他をそしり、自らを振り返らない人達を憂う声もしきりである。こうした中で、甲子園出場という壮筆をみごとに成し遂げた市立柏校野球部がもたらしてくれた意味は極めて大きい。公立高で普通科、しかも市民の学校であるだけになおさらである。

年明け早々からの自粛ムード漂う中で、まさに一服の清涼剤であり、それ以上に「ふるさと運動」を展開して十年の節目において、さらに開校十年にしてこの快筆を天与の好機として活かしたいものである。やる気のある人が、やる気になってやる気のある人間を育て、さらにチームプレーによって、描き出された日常実践の昇華に対し、心からの感謝をさげすみにはおられない。

ぜひ、全市民一丸となって、この壮途をさかんにしてやりたいものである。市民の一体化した姿によって支えていただきたいのである。関東大会決勝戦横浜スタジアム、相手校のスタンドは超満員。市立柏校側は、日本一の吹奏楽部が応援したとはいえ総勢百人たらず、まさに無欲の勝利。今こそ、こそぞつての応援のもとに思つて存分活躍させてやりたいものである。

汗・涙・青春

市立柏高等学校長
赤池邦生



生徒の夢が実現できますのは、柏市の皆様のご支援のたまものと、心からお礼申し上げます。指導に当たられた先生方に、敬意と謝意を表し、そして、部員諸君の健闘と努力に拍手を贈ります。

全校の生徒諸君には、野球部の快挙から「努力を続ければ、必ずなんらかの形で、その努力は報いられる」ことを学んでほしいのです。野球部の諸君は、これまで汗と涙を流して努力してきました。この汗と涙が、人間を磨いてくれま

市立柏高野 球部の足跡

- 昭和53年 学校創立とともに創部。一年目はグラウンド整備に追われた。初参加の公式戦では、五回コールドゲームで敗退
- 昭和54年 秋の新人戦で、公式戦初勝利
- 昭和55年 夏の大会で初勝利
- 昭和57年 秋の新人戦でベスト8
- 昭和58年 春の大会でベスト8
- 昭和60年 春の大会でベスト16。夏の大会では、甲子園までもう一步の決勝戦まで勝ち進んだ
- 昭和62年 開校十年目。6月の北部大会準優勝。秋の新人戦でベスト8。11月の北部大会優勝。
- 昭和63年 夏の大会で、再度決勝まで進んだが、惜しくも敗退。しかし、秋の大会で準優勝となり、関東大会へ出場。強豪チームを破り続ける快進撃で、みごと優勝
- 平成元年 2月1日、春の選抜大会出場の切符を、ついに手にした

市立柏高の プロフィール

- 【創立】 昭和五十三年四月十二日
- 【生徒数】 一、二六六人（男子七〇一人、女子五五五人）
- 【野球部以外の部活動】 吹奏楽部は全国大会で二度の金賞。そのほか、バスケットボール・フェンシング・剣道・テニス・水泳などが盛ん